

# 国際旅行と 第17号 旅仲間通信

発行：株式会社 国際旅行 JR網干駅北口正面  
電話：079-273-2421

田中をたたく〜継続

皆様こんにちは。梅雨が明けたかと思えば、台風の影響による大雨に見舞われ、今年は短い夏になりそうですが、いかがお過ごしでしょうか?

国際旅行と旅仲間通信も17号を迎えることができ、スタッフ一同、皆様本当に感謝しております。この紙面は、「地域密着の旅行会社」を表現させるための、一つの手段としてスタートしました。この目的は今でも変わりがありません。紙面を通じて、一人でも多くの方と触れ合い、ツアーを通じて一人でも多くの方に喜んでいただく。それは全て地域の皆様に対して、私たちが出来る精一杯のことです。決して大きなことではありませんが、この紙面を楽しみにしてほしい方の方のためにも、これから継続して発行していきたくと考えておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

今回の紙面で、地域密着活動の二環として、ボランティア配布スタッフの募集という企画を打ち出しております。地域の皆様への距離を一歩ずつ縮めながら、いつも「明るく、豊かで、幸せな地域生活」を作るよう出来ることを心より楽しみにしております。

大手旅行会社は「一味も、二味も違う」、網干に住まれ育った国際旅行の心を追求し、一人でも多くのお客様に、「国際旅行があって良かった」と言ってもらいたく、会社を目標とします。すべての「地域密着」という目的のため、私たちは頑張っています。

(社長) 門田 基秀

## 地域に根付いた新活動

### 一枚からOK! ボランティア配布スタッフを募集

国際旅行では、本紙「国際旅行と旅仲間通信」を、お友達や近所の方々へボランティア配布していただける方を募集いたします。

かわの版「国際旅行と旅仲間」も、創刊から2年半が経過し、17号まで発行するこころができました。御座いますので、「次はまだ出ないの〜」「いつも楽しみにしていますよ」、「こころ暖かい声をかけていただくといい出来、スタッフ一同、本当に感謝しております。

実は、この紙面は会員様への郵送し、僅かな新聞折り込みだけで実施しております。出来るものならば、**網干、太宰、たつの**の全世帯の方々へお届けしたいのですが、それ

には費用がかかりすぎるため、実施できていないのです。しかし、紙面を発行するために、広告スペースを取って、費用を賄うことは、紙面「限りのありますので、記事を減らすことになり、それは本末転倒になってしまふので、一切広告を掲載することなくやっています。

せっかく読者の皆さまが評価をいただいているので、一部の限られた人々にしか読んでいただけないこと、本当に残念に思っております。そこで、今回新たな試みとして、本紙をお友達や近所の方々に**ボランティア**で配布していただける方を募集することにしましたので、配布した枚数は、**一枚**

お持ちの方ですが、今回も「家電リサイクル工場見学」という、**非常に面白い企画案**をいただきました。時代が「IT」の大切さを訴える今だから、普段使っている家電がどのようなリサイクルされているのか、興味深い**工場見学**になります。今後、ツアーとして商品化できるか検討し、再度発表いたします。ぜひご期待!

感謝! 本当にありがとうございます!  
お客様参加型企画会議 進行中!!

恒例となってきました本企画。おかげさまで紙面を発行するために、皆様から**熱心に企画案**をいただき、**本当にありがとうございます。**

今回は、また商品化に至っておりませんが、企画をいただいた方々への感謝の気持ちを込めて、どんな企画案が届いているかを発表してまいります。**20名程度**の案を出していただいております。また、**次回の紙面**では商品として発表されるものも出ていると思っております。

企画者: 本人だけでなく、読者の皆さまも、今から手紙、口こおいてください。ね!

それでは、まずお一人目から紹介いたします。

大津区 山下智鶴さん

家電のリサイクル工場見学と  
菊花展ツアー

「まだあなたは以前にも企画案を出していただき、実際の商品として発表された実績を

でも結構です。枚数を強制するものではありません。純粋に本紙を楽しんでいただき、お友達にも紹介してあげようと感じていただける方であれば、**ごなだまも結構です。**あなたから始まり、**網干、太宰、たつの**、更なる旅仲間が広がり、よりの地域に根差した企業活動が出来ることを心より楽しみにしております。

**ボランティア配布スタッフ**に興味を持っていただいた方は、**左記までご連絡ください。**

国際旅行  
079-273-2421  
ボランティア配布係

### 重大発表です!

ふれあいツアーでは、**新しい旅の形**として「10名様から**出発保証**するバス旅行」をスタートします。

多くの旅行会社が日帰り旅行を発表し、多くのお客様にお集まりいただけてきました。しかし、**私が疑問に感じたこと**は、申し込みをしたあとなのに、「今回は人が集まらないので中止です」という、旅行会社都合でのツアー中止でした。

多くのお客様は、友達や休日を合わせて**楽しみに計画**していただいているので、予定の一週間前「一本の電話で簡単に中止」になってしまうことは、お客様に対する裏切り行為だと感じました。そこで、**ふれあいツアー**を出し続けてからは、当然会社は潰れてしまいます。

「ふれあいツアー」では、**出来る限り出発保証**のようになっています。10名**出発保証**ツアーを企画したので、通常のツアーよりも**少人数での出発を保証**する以上、料金は通常のもの若干高くなります。それでも、楽しんでほしい旅行が中止になるのを考えるならば、その価値は十分にあるものだと思います。今回も3本の10名出発ツアーを企画しました。**ぜひご参加くださいませ!**

ぜひ、読者の皆さまも気軽に企画したツアーが商品化される、地域の皆様が旅に出る。こんな「嬉しいこと」は他にありません。

## 国際旅行物語

### 第十五話

#### 「一番泣いた日」

平成十五年二月二〇日は、私の今までの人生の中で**一番泣いた日**になった。前年の三月から闘病生活を送っていた「最高のパートナー」である従兄弟が亡くなったのだ。約十一ヶ月の闘病生活。入院当初から私は、時間があれば病院へ従兄弟の顔を見に行っていた。

常に前向きに病気を闘おうとする姿、周囲に気を遣って明るく振舞っている姿を目の当たりにして、私は従兄弟の人間としての強さを感じていた。病気は、入院当初から厳しい状況であり全快を信じながらも常に不安がつきまといっていた。

亡くなった後、従兄弟の自宅で本人が書いていた**数冊のノート**を見せられた。そこには、闘病の日々が書き綴られていた。それを読ませてもらう、また涙が溢れ出てきたことを記憶している。私にこころも会社にとっても従兄弟の死は、**大きな大きな衝撃**であり痛手だった。もちろん一緒に働いていた社員にとっても。また、四十歳の若さ、一人の子供たちも中学一年生と小学五年生だった。

私は、自分自身のこれからの人生をどのように生きていけば、従兄弟に対して胸を張って「**頑張った**」、ということが出来るだろうか考えた。最高のパートナーであった従兄弟。その従兄弟に「**やすがやなあ**」と言ってもらえなかった。

しかし、六年半が過ぎたとしても「合格証」は、もちろんない。しかし、「**やすがやなあ**」が、**ダメだ**、と今も自分を奮立たせている。目の前で四歳しか年齢の差がない**従兄弟が見せた生き様**は、私にとって一生かけても追いつくことが出来ないかもしれない。でも、その生き様を見てきた私が負けるわけにはいかない。そんな想いで日々仕事に励み、この**かわの版**も発行してきた。多くのことを学ばせてくれた従兄弟に感謝しつつ、これから**日々精進**していきます。頑張り続けるなあ。いつまでも見守っていてなあ。」

(次号入り) (17頁)